

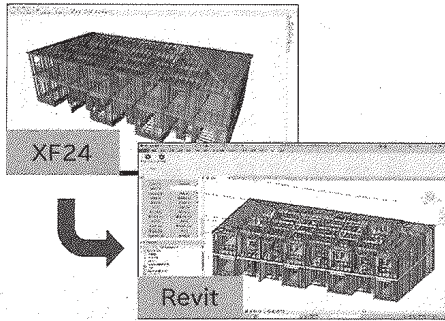
# BIM交換、ウォールスタット直結

## 年内にも「円弧／斜め座標系」に対応

### ネットイーグル

ネットイーグル（福ト）で読み込むための

岡市、祖父江久好社長）インターフェイスを開  
は、2×4CAD「XF24」を発売した。これにより、  
F24」で作成した構造 XF24で作成したデー  
データをオートデスク タがBIMデータやウ  
のBIMソフト「Re オールスタット解析デ  
vit（レビット）」ータとしてそのまま利  
や木造住宅の倒壊解析 用できるようになり、  
シミュレーションソフ 活用の幅が各段に広が  
ト「ウォールスタット」



構造データをオートデスクのBIMソフト「Revit(レビット)」で読み込むためのインターフェイスを開発した

同社のXF24は床、壁、屋根の一体設計とCAD/CAMプレカットが特徴で、木拾いで、自動積算、構造計算（断面算定）、タル

キの3次元加工、シーリングマシンによる釘打ち、面材の加工までデータ連動による自動化を実現している。

2×4工法専用の許容応力度計算システム「NSC24」も自社で開発しており、BIMがなくても、構造設計から構造計算、ウォールスタット、加工まですべての工程が再入力の手間なく、同じデータで完全連動する。

ただ、国は2023年度までに小規模を除くすべての公共事業でBIM/CIMを原則適用することを決定している。BIMを使えば、構造だけでなく、意匠から構造、加工、施工、維持管理まで同じデータで統一できる

社にデータ作成を依頼し、物件数が増えたら自社で変換ソフトを導入するという選択もできる。

構造計算システムの「円弧／斜め座標系」NSC24は床面積の入力制限がなく、2000平方メートル以上の大型物件にも対応している。（特集おわり）